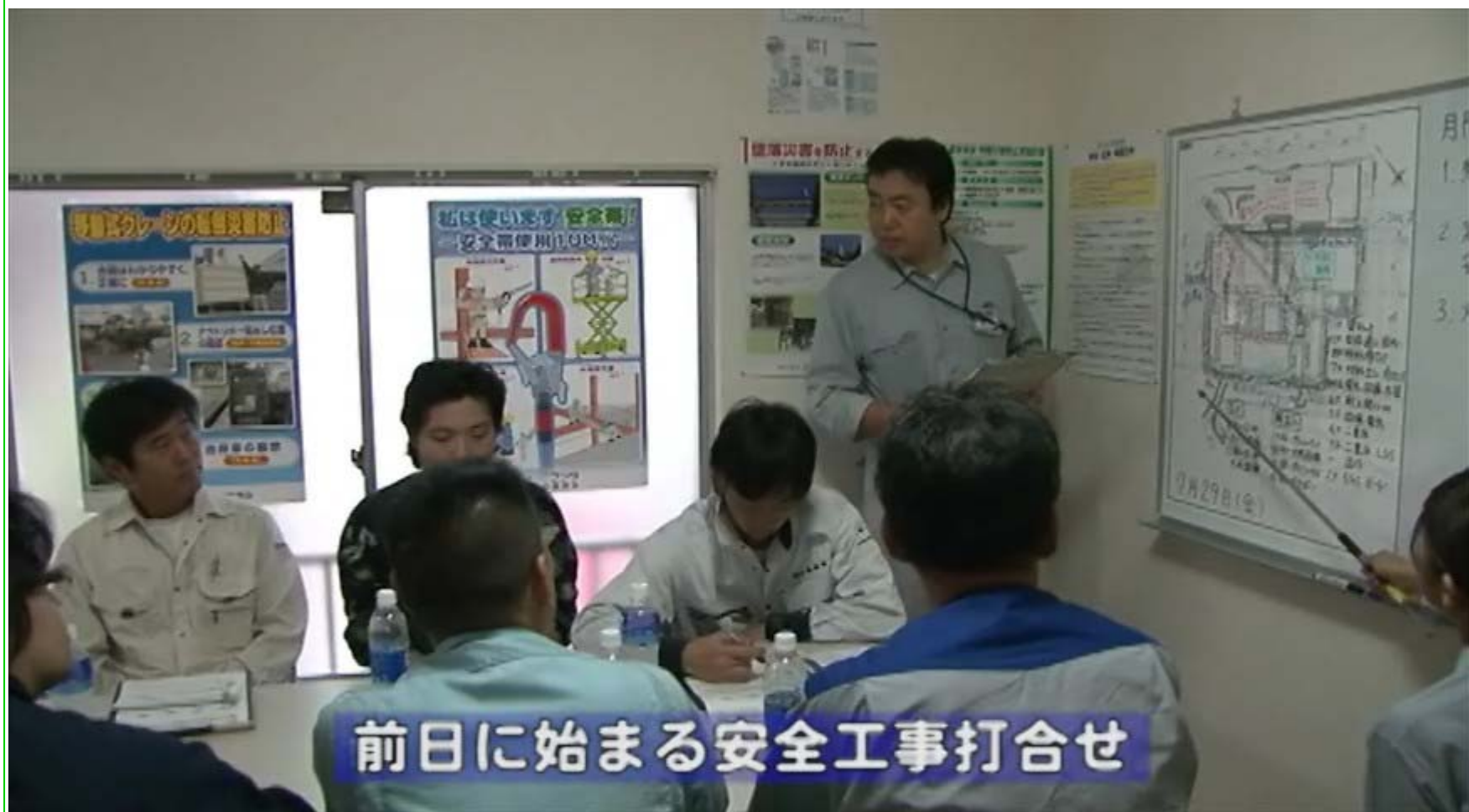


リスクアセスメント作業手順書 を活用したKY活動

安全施工サイクル





前日に始まる安全工事打合せ



朝の安全ミーティングとKY活動



不安全状態



不安全状態



不安全行動

不安全行動

作業工程	作業の順序	危険性又は有害性 (予想される災害)	可能性	重篤度	評価点	評価	予想される災害の防止対策	誰が
4 運搬作業	1) 荷取り		3	3	6	●		
	①荷揚げ、荷卸し方法を確認する	<u>荷に挟まれる</u>				危険性・有害性への対策	リスクアセスメント作業手順書の内容を確認して記入の事 (判定がC6) 予定作業に対して こんな危険がある (「～するとき、～になる。」と記載する)	可能性
		<u>荷が落下する</u>					① 転倒する ×	1
		<u>吊荷が落下して人に当たる</u>					② 足場から墜落する ×	1
				③ 吊荷が落下する ○	1			
	②玉掛	<u>吊荷が落下して人に当たる</u>						
							玉掛者	
							帯筋・あばら筋は必ず対角方向に2本吊で玉掛する	
							小物は布袋等に入れて落下を防止する	

作業手順書と安全工事打合せの内容が違う

行動目標(危険に対してこのようにする)

(「～して、～する。」と記載する)

足元注意

保護具着用

合図者は吊り荷を見て合図する

具体性が無い
いつも同じ内容

具体的でないマンネリ化した対策

危険性・有害性への対策	リスク	対策	実施の確認
	予定		
	① 転倒する	<u>足元注意</u>	
	② 足場から墜落する	<u>保護具着用</u>	
	③ 吊荷が落下する	<u>合図者は吊り荷を見て合図する</u>	
	④		
	⑤		


項目	内容	ページ	項目	ページ
1. 目的	リスクアセスメントの目的を明確にする。	1	10. 付録	100
2. 適用範囲	本作業手順書の適用範囲を定める。	2	11. 用語の定義	101
3. 役割と責任	関係者の役割と責任を定める。	3	12. 参考文献	102
4. 実施手順	リスクアセスメントの実施手順を定める。	4	13. 索引	103
5. リスクの特定	作業活動から潜在的なリスクを特定する。	5		
6. リスクの評価	特定されたリスクの発生可能性と影響度を評価する。	6		
7. リスクの許容性	評価されたリスクが許容範囲内にあるかどうかを確認する。	7		
8. リスクの低減	許容範囲を超えるリスクを低減するための対策を講ずる。	8		
9. 見直し	状況の変化に応じてリスクアセスメントを見直しを行う。	9		

リスクアセスメント作業手順書





前日の安全工事打合せ



朝の安全ミーティングとKY活動



安全作業

作業内容	目的	実施方法	実施時期	実施場所	実施者
リスクアセスメント作業	作業中の危険性を事前に把握し、適切な対策を講ずる	作業計画に基づき、作業現場で実施する	作業開始前	作業現場	作業員
安全作業の実施	作業中の危険性を回避し、安全に作業を行う	作業計画に基づき、作業現場で実施する	作業開始時	作業現場	作業員
作業完了後の確認	作業完了後の安全を確認し、作業現場を整理する	作業完了後、作業現場で実施する	作業完了後	作業現場	作業員



安全作業の出発点

リスクアセスメント作業手順書

予定作業に対して こんな危険がある

(「～するとき、～になる。」と記載する)

危険性・有害性への対策

- ① ワイヤが切れて吊荷が落下する
- ② 玉掛者が吊荷に激突される
- ③ 吊荷に作業員が挟まれる
- ④ 玉掛から抜けて吊荷が落下する
- ⑤ 吊荷が落下して人に当たる

実態の
確認

合図する

危険性・有害性への対策

- ① ワイヤが
- ② 玉掛者が
- ③ 吊荷に作
- ④ 玉掛から
- ⑤ 吊荷が落

作業にひそむ危険要因を抽出

		可能性	重篤度	評価点	評価		
リスクアセスメント作業手順書の内容を確認して						対策実施 判定が<4, ◎>⇒優先的対策実施のこと	
予定作業に対して こんな危険がある (「～するとき、～になる。」と記載する)		1	1	2	○	行動目標(危険に対してこのようにする) (「～して、～する。」と記載する)	実施の確認
危険性・有害性への対策	① ワイヤが切れて吊荷が落下する	1	1	2	○	吊り具の点検を行って、不良品は除く	
	② 玉掛者が吊荷に激突される	1	1	2	○	玉掛者はオベと玉掛者が良く見える場所に立って合図する	
	③ 吊荷に作業員が挟まれる	1	1	2	○	吊り具の切りで荷揺れを止めて安全を確認する	
	④ 玉掛から抜けて吊荷が落下する	1	1	2	○	吊荷は介錯ロープを使用して制御する	
	⑤ 吊荷が落下して人に当たる	1	1	2	○	吊荷は布袋等に入れて落下を防止する	
		3	3	6	●		

危険が発生する可能性と重篤度を評価

行動目標(危険に対してこのようにする)

(「～して、～する。」と記載する)

危険性・有害性への対策	リスクアセスメント 予定作業 (「～する」)	行動目標	実施の 確認
			玉掛用具の点検を行って、不良品は除く
危険性・有害性への対策	① ワイヤが切れて吊荷が落下する	合図者はオペと玉掛者が良く見える場所に立って合図する	
	② 玉掛者が吊荷に激突する	合図者はオペと玉掛者が良く見える場所に立って合図する	
	③ 吊荷に作業員が挟まれる	地切りで荷揺れを止めて安全を確認する	
	④ 玉掛から抜けて吊荷が落下する	吊荷は介錯ロープを使用して制御する	
	⑤ 吊荷が落下して人に当たる	小物は布袋等に入れて落下を防止する	

行動目標を決定 (具体的な対策)

作業手順 (主なステップ)	急所 (安全・正否・やりやす)	危険性・有害性 (予測される危険)	可 能 性	重 大 性	評 価	危 険 度	危険性・有害性の 防 止 対 策	責 任 者
地組み梁セット マット手摺の足組設置、 人員の配置、 転倒に注意、 足元パイプ、 地組み梁を、 架台の足元は片づける (安定させる)	ジョイント → 落しこみ ・キーブタンをもちにセットするのを注意、 ・主筋(架合せ)間隔は10mmあける、	(予測される危険) ・立ち入り禁止措置 (カラーコーン) ・足元へ足を落す、または転 倒、 ・鉄筋材、部材が落下し、下 へ落ち、 ・地組梁のボックスが高くて大 げな、沈み、 ・脚鉄へ足を落す、または転 倒、 ・梁一柱・壁柱で倒れ、 ・束縛部、開口部から転落す ・(ガラス)材運搬時のつまづ ・倒れた足元パイプが人にぶ つかす、 ・落下し込み等、 ・作業中、 ・作業完了の時点で					介錯ロープは必ず使用 吊り荷から絶対に目を離さない！ 介錯ロープが足場を超えてから放回する 吊り荷直下の人は払いは厳禁する！ 軽やかに ゆっくりと降ろす 足元は片づける	班長 全員 全員 班長 全員 全員 全員 全員 班長 班長
リスクアセスメント作業手順書								



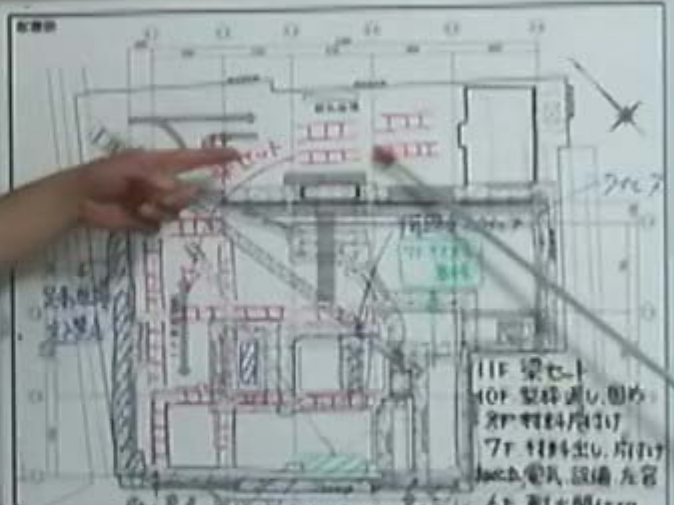
前日の安全工事打合せ



安全・品質・環境方針

月間安全

- 1. 熱中
- 2. 足場安全
- 3. 火花



- 11F 梁セト
- 10F 型枠調り、固め
- 8F 材料出し
- 7F 材料出し、応付
- 6F 電気設備 左室
- 5F 電気設備 右室
- 4F 二重床
- 3F 二重床、LGS
- 2F LGS ボード

(EV)

- 8:30-12:00
- 入付建設
- 13:30-15:30
- 大成設備

(搬出入)

- 13:00-14:00
- 13:00-大成設備
- 15:00-タニセイ
- 15:30-タカボシ

-行動目標-

「鉄筋材の落下」に対する「人払いの徹底」





作業に伴う危険と対策をよく確認



地切りで吊り荷の状態を確認
合図に従って人払いの徹底
足元を片付ける



足元を片付ける



地切りで吊り荷の状態を確認



合図に従って人払いの徹底



合図に従って人払いの徹底



リスクアセスメント作業手順書で危険を再確認



思い付きではなくその日の作業に合った対策に



安全作業をパトロールで確認・フォロー



その日その日の危険要因に目を向けるKY活動を！

